

新人看護師における手術センター研修の効果

小野 由美子, 千坂 和枝, 小池 喜代子

はじめに

保健師助産師看護師法の改正により2010年度より新人看護職員研修が努力義務となり、A病院においても2011年度より厚生労働省の新人看護研修ガイドラインに沿いローテーション研修が組み込まれるようになった。ローテーション研修は1部署では得ることのできない幅広い臨床実践能力を獲得するために有効とされている。様々な部署を経験することにより、幅広い経験をし、看護の視点を育てることに繋がっていくことを目的としている。

ローテーション研修は現在様々な施設で取り入れられており、期間・方法も各施設の独自性に基づいて実施しているようである。A病院手術センターにおいては5日間の研修期間で、病棟では経験できない看護技術の習得を中心に研修を実施している。

堀田らは「手術室ローテーション研修は、手術看護の理解に繋がった。看護技術の習得ができ、研修は有効であった」と述べている¹⁾。また、佐藤らは「院内留学での学びとして最も多かったのは、基本的知識・技術の獲得である。」と述べている²⁾。いずれも1日間の研修で得られた結果で、基本的な技術を学ぶことが出来るとされている。さらに、熊谷は「急性期病院における看護師の役割を学ぶ機会として、たとえ短い日数であっても、経験が以前の経験を意味づけるため、ローテーション研修は有効な教育である。」と述べている³⁾。

そこで、2年間、計21名に実施したローテーション研修を振り返り、研修の成果を明らかにし、さらに研修プログラムの見直しと今後の課題を明確

にしたいと考え、この研究を実施した。その結果と今後の課題を報告する。

<用語の定義>

ローテーション研修：新人看護師が2人1組となり配属先とは異なる病棟で5日間の研修を行う。平成23年度において内科系病棟配属者は外科、婦人科・泌尿器科、整形外科病棟のいずれか一病棟、また外科系病棟配属者は一般内科、消化器内科、循環器病棟のいずれか一病棟で研修を実施した。平成24年度は全員が認知症疾患センターで実施する。またICU・手術センターにおいては全員が実施する。

新人看護師：免許取得後に初めて就労する看護職員（新人看護職員研修のガイドライン⁴⁾）

目的と方法

I. 研究目的

手術センターにおける研修の成果を分析し、新人看護師のローテーション研修の効果の明確化及び研修プログラム見直しの根拠を明らかにする。

II. 研究方法

1. 研究期間 平成23年7月～10月、平成24年7月～10月
2. 研究対象 平成23・24年度入職、ローテーション研修を終了した新人看護師21名
3. データ収集方法
 - 1) 手術センター研修終了後、1週間以内に提出した研修の学びのレポート。
 - 2) 研究協力者の背景は、インタビュー形式で収集する。
4. データ分析方法
 - 1) レポートから学びの内容を抽出。
 - 2) 抽出された内容をブルームの教育分類⁵⁾を

用いて分類し、さらに類似内容をカテゴリー化した。

5. 倫理的配慮

対象看護師に紙面にて、研究の目的、得られた情報は研究以外には用いないこと、得られた情報からは個人が特定されないこと、得られた情報は研究後廃棄することを説明し、協力の同意を得る。さらに、研究に協力できなくとも業務上不利益にならないこと、途中でやめることも可能であることも説明する。

結 果

1. 研究対象者の背景

1) 所属部署

外科系病棟配属者：12名 内科系病棟配属者：9名

2) 看護基礎教育背景

大学卒業者：6名 短期大学卒業者：2名 専門学校卒業者：13名

3) 手術室実習経験の有無

経験あり：18名 経験なし：3名

2. ブルームの教育目標分類を用いて学びの結果

1) 認知的領域

(1) 知識について

21名全員が何かしらの知識を得たと記述している。記述が多かった順に「麻酔の種類・効果」「麻酔科医師の役割」「気管内挿管介助」「術前訪問」「解剖」であった。

(2) 理解について

「術前訪問」、「体位」、「手術」と記述している。2名が「手術室入室の説明」「安全な体位の固定」と記述している。

(3) 応用について

「術後の観察ポイントを病棟の患者と重ねて学んだ」、「病棟の回診処置につながる」と記述している。

2) 情意的領域

(1) 受容について

手術室看護師が患者との関わりについて「術前訪問」、「配慮」、「病棟看護師」、「チーム」と記述

している。

(2) 反応について

「準備や予測を持って動く」、「羞恥心への配慮（不必要な露出をしない）」、「不安緩和のための工夫（環境作り、術前訪問）」、「手術室看護師の知識の量から自分も解剖整理から疾患理解に努めた」と記述している。

(3) 価値づけについて

「配慮」、「不安」、「役割」と記述している。

3) 精神運動的領域について

(1) 模倣について

「介助」、「操作」、「説明」と記述している。記述が多かった「介助」の内容では、10名が「気管内挿管介助」と記述している。

(2) 操作について

「ガウンテクニックや手洗いが難しかった」と記述している。

考 察

平成23・24年度のローテーション研修学びの成果についてブルームの教育目標分類を用い、認知的領域、情意的領域、精神運動的領域と分類し検討した（表1）。

仙台市立病院における新人研修の目的は、安全に看護が出来る実践能力を身につけること、また自律的に行動でき、自主的に学ぶ姿勢が身につくことを新人育成のねらいとするとなり、その一つの手段としてローテーション研修が組み込まれている。

手術センターローテーション研修では、臨床実践能力にある気管内挿管介助について学び、技術を獲得するとともに、手術センターの概要を知る、手術中の看護を知るという目的のもとに研修が行われた。今回、その目的達成のほか、教育目標分類から多くの学びを抽出することが出来た。

認知的領域については、ほぼ全員が学生時代に手術室実習はあったものの、1日の見学実習にとどまっていた。1日だけの手術室実習では、手術室について知ることは難しく、イメージしにくいものとする。しかし、研修レポートから、「術前訪問」、「器械の操作、取扱い」、「麻酔の種類・

表 1. 学びの分類

1) 認知的領域

領域	カテゴリー	内容
知識	看護	気管内挿管の介助を知った：4名、器械の操作、取扱い：3名、安全安楽な体位：3名、患者誤認防止：3名、体温保持：3名、体内遺残防止：2名、手術室の役割：2名、術前訪問：4名 限られたスペースでどのように動くか 使いやすいように考えながら行動していた：2名 コメディカルの関わり：3名 外回り看護師の仕事 緊張緩和、硬膜外カテーテル挿入時状況説明、細やかな配慮 器材の準備、相手の立場に立つ、的確な行動 患者の利益を守る＝安全でスムーズな手術
	感染予防	スタンダードプリコーション、清潔・不潔の区別 滅菌操作：2名、滅菌物の取り扱い
	麻酔	麻酔の種類・効果：9名、麻酔科医師の役割を知る：4名 疼痛コントロール、絶飲食の必要性：2名
	その他	人体の解剖：4名、手術室の構造、甲状腺手術の昇圧について
理解	術前訪問	不安軽減につながる、手術室入室の説明：2名
	体位	安全な体位固定：2名、手術後に影響を与えると理解
	手術	手術の流れを理解し予測した介助や調整 器械の片づけが器械を知り、安全な手術の遂行につながる 使いやすいように器械の配置がされている
応用	研修後応用	術後の観察ポイントを6西の患者と重ねて学んだ 病棟の回診処置につながる

2) 情意的領域

受容	術前訪問	手術をイメージでき安心出来る、不安の緩和に努めている
	配慮	術前の看護師の声掛けや羞恥心に対する配慮 タオルを温め、室温に注意 患者の緊張緩和の声掛け、説明：2名
	病棟看護師	病棟から手術室に送り出すときの関わり
	チーム	医師とのチームワーク
反応		準備や予測を持って動く 羞恥心への配慮（不必要な露出をしない） 不安緩和のための工夫（環境作り、術前訪問） 手術室看護師の知識の量から自分も解剖整理から疾患理解に努めた い
価値 づけ	配慮	患者の羞恥心：2名、硬膜外カテーテル固定
	不安軽減	看護師が患者に寄り添うことが大切、声掛け
	役割	連携：2名、責任・重要性・役割：2名

3) 精神運動的領域

模倣	介助	気管内挿管介助：10名、中心静脈カテーテル挿入介助 局所麻酔薬の吸い上げ介助：2名、尿管カテーテル挿入 ガウンテクニック介助：3名
	操作	清潔操作：3名、滅菌物の取り扱い（操作）
	説明	術前から術中の説明ができた：2名 手術後患者に麻酔から手術の流れの説明ができた
操作		ガウンテクニックや手洗いが難しかった

新人看護職員手術センター研修計画

- 研修目標：1. 手術センターの概要を知る。
2. 手術中の看護を知る。
1) スタンダードプリコーションの実際を知る
2) 無菌操作を実施する
3) 洗浄、消毒、滅菌の実際を知る
4) 気管内挿管の準備と介助を知る

日程	行動目標	行動計画：午前	午後
1日目（月）	手術センターを知る	1. 手術センターオリエンテーション 1) 手術室の特殊性、構造など…師長 2) 手術見学…何を見たいか、何に興味があるか事前に見学レポート	1. 看護師としての目線で見学し、外回り看護師の動きを見学する 2. 気管内挿管デモンストレーション 3. 診療材料部の見学
2日目（火）	麻酔介助の方法を知る	1. ミーティング① 1) 1日目見学後の振り返り（見学目的に沿って） 2) 経験したい事、知りたい事の確認	1. 腰椎・硬膜外麻酔介助の説明 2. 気管内挿管介助の実施 3. 術前訪問の説明、実施
3日目（水）	手術で使用している器械を知る	1. 各種ME機器説明 2. 鉤製小物説明 3. 気管内挿管の実施（午後も含む）	1. 看護技術体験 1) 手術で使用済み器械の洗浄方法を知る 2) 洗浄の実施
4日目（木）	麻酔について知る	1. ミーティング② 1) 麻酔について…麻酔科医師より講義	1. 看護技術体験 1) 気管内挿管介助の実施 2) 実際の手洗い方法、器械展開を知る 3) ガウンテクニック
5日目（金）	同上	1. 気管内挿管介助の実施	1. 気管内挿管介助の実施 2. 反省会

効果」、「人体の解剖」といった内容を記述していた。記述内容は、病棟勤務では学ぶことの出来ない手術室独自のものであり、萩田らは「1日の研修であったが、実際に見たり体験したことは強く印象に残り、効果的な研修になる」と述べている⁶⁾。このことから、5日間のローテーション研修で手術センターの概要が学べたと言える。また、知識の中に麻酔に関する記述が多くみられた。これは、麻酔科医師の講義とその後の見学と実践が結びついた結果といえる。

情意的領域については、手術室看護師と患者との関わりについて学んでいた。現在、基礎教育課程の中で手術看護を学ぶ機会がほとんどなく、研究対象者も1日の手術見学にとどまっていた。今回、研修レポートには「患者の緊張緩和の声掛け、説明」、「患者の羞恥心」、「術前の看護師の声掛けや羞恥心に対する配慮」、「医師とのチームワーク」など手術看護の実際を記述していた。しかし、研修レポートに記述されている内容は認知的領域と比較すると少なかった。手術センター研修の目標、

行動計画において、看護技術の習得については計画していたが、情意的領域部分の目標、行動計画は立案していなかった。情意的領域に関しては計画が困難であるが、講義、見学、実践と結びつきが出来、手術中の看護を感じ取れるプログラムの必要性の有無の検討が必要と考える。

精神運動的領域について、研修レポートから約半数が「気管内挿管介助」と記述していた。気管内挿管介助は、新人看護師にとって未経験のことであるが、新人看護師看護技術の到達目標に掲げられており、病棟では経験することが困難な看護技術のひとつである。そこで、5日間の研修の中で気管内挿管介助の説明から実践へとつなげ繰り返し行う技術研修を企画した。土蔵は「手術室看護師の看護技術習得するものには教え込む徹底した教育システムと身体に覚えこませた繰り返し実践がある」と述べている⁷⁾。これは手術室看護師の技術習得に述べられているが、新人看護師にも同じことが言えると考え。そのため、繰り返し実践を行った気管内挿管介助が新人看護師にとって技術習得に有効であり、学びとして抽出されたといえる。また、先行文献から、手術室研修は基本的技術の習得につながったとあるように、今回の研修レポートからも、「清潔操作」、「カウンテクニク介助」、「局所麻酔薬の吸い上げ介助」と基本的技術の項目が記述されていた。技術習得は新人看護師の自信に繋がり、今後の看護実践能力を伸ばす結果になると考える。このことから、病棟では学ぶ機会の少ない清潔操作、スタンダードプリコーションなど、手術室の特徴的な技術を習得する必要性があると考え。そのためは、習得技術を吟味し、指導方法を確立していく事が今後の課題である。

また、研修レポート分析することで、ローテーション研修の目的達成以外の学びもあることが分かった。外科系新人看護師は「甲状腺手術の昇圧」、「体位が手術後に影響を与えると理解」、「術前から術中の説明ができた」などと術前から術後の看護と結び付けられていた。安富は「手術室の体験は、新人にとって新鮮であり、満足度が高い。また、配属部署と関連した診療科の手術を見学する

ことにより、術前・術後の看護の視点が広がる。」と述べている⁸⁾。このことから、新人看護師に限らず、外科系病棟看護師にとって手術室研修は術前から術後の看護への結びつきが出来るのではないかと考える。

以上より手術センター研修目標は達成することが出来たと判断する。しかし、教育分類の分析からは認知的領域での学びが他の領域と比べ多く、記述した人数も多かった。反対に情意的領域の記述が少なかったことから、手術室における情意的領域の学びは、内容と方法をより明確にし、研修プログラムに組み込んでいくことが必要なのではないかと思う。しかし、手術看護は継続的な学びが必要であり、5日間の研修のなかで3領域に関して学んで行く事は難しいことでもある。その中から見学、実践と結び付けて理解できるよう、講義なども取り入れながら新人看護師自身の主体的な学びの援助を行う必要がある。今後、新人看護師ローテーション研修を継続していくにあたり、研修プログラムを見直していく必要があると考える。

佐藤らは「院内留学で知識・技術を獲得することは、新人看護師が成長するうえで重要な意味をもつ」と述べている²⁾。このことから、手術センターローテーション研修は病棟では得られない学びがあり、手術センターの概要を学ぶことに有効であった。また手術看護の実践に触れ、手術看護を知ることに有効であった。今後、研修プログラムの見直しとして、手術看護の特徴を生かした内容、特に情意的領域においては、不安な患者を受け止める受容の態度、精神運動的領域では感染予防のための技術について検討するの必要を感じた。今回のローテーション研修は、自ら様々な気づきや学びを得ることが出来、新人看護師の今後の成長過程の一つになったと考える。

ま と め

1. 手術センターローテーション研修は手術センターの概要を学ぶことに有効であった。
2. 手術センターローテーション研修は手術看護の実践に触れ、手術看護を知ることに有効で

あった。

3. 今後の課題として、見学、実践と結びつきが出来るよう講義も取り入れた研修プログラムの見直しが必要である。

文 献

- 1) 堀田牧代 他：新人教育における手術室ローテーション研修実施後のイメージの変化について. 日本手術看護学会誌 **7**: 58, 2011
- 2) 佐藤元子 他：新人看護師の院内留学の成果～手術室, 外科系病棟間の1日研修を実施して～. 日本手術看護学会誌 **7**: 38, 2011
- 3) 熊谷雅美：ガイドラインを読み解き新人看護職員臨床研修制度に活用. 看護 **62**: 36, 2010
- 4) 厚生労働省：新人看護職員研修ガイドライン
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/dl/s1225-24a.pdf>
(2011年3月20日)
- 5) ブルームの教育目標分類
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kishilab/Bloom.htm> (2011年3月20日)
- 6) 萩田多恵子 他：新人看護師ローテーション研修の効果と今後の課題. 香川県看護学会誌 **3**: 1-4, 2012
- 7) 土藏愛子：手術室看護師の看護技術習得に影響するもの. 日本手術看護学会誌 **7**: 3, 2011
- 8) 安富恵美子：ローテーション研修の準備と受け入れ方. 主任 & 中堅+こころサポート 日総研 **20**: 63, 2011